

今週（6月14日から6月18日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期間を跨ぐ週となった。無担保コールO/N加重平均レートは、週の前半は高い水準での推移となった。新しい積み期間に入った週の後半は、若干低下したものの、週末にかけて上昇していった。週明けの14日から積み最終日となる15日は、都銀・信託・地銀・証券といった様々な業態からの調達意欲が旺盛で、▲0.03～▲0.01%の出合いが中心となるなど、過熱感の強いマーケットとなった。16日は積み初日となり、一部調達サイドに様子見姿勢が見られたことで、レートは前日比で低下した。その後は取り手の調達意欲が再び強まり、▲0.04～▲0.01%を中心にした出合いとなり、やや強含みの展開が続いた。ターム物の出合いは、6月末を越える取引は少なく、月内のショートターム物で▲0.02～▲0.01%のレンジで推移した。日銀当座預金残高は国債の発行・償還、各種オペ要因がある中、15日の年金定時払いを機に約520兆円から520兆円台後半に増加した。

6月17日～18日に開催された金融政策決定会合では、「新型コロナ対応資金繰り支援特別プログラム」の延長（2022年3月末まで）に加え、「CP等・社債等」の買入上限枠の延長（同）が決定された。また、「気候変動対応投融資をバックファイナンスする新たな資金供給の仕組み」を導入することが決定された。骨子素案は7月の金融政策決定会合で公表される予定である。

●レポ市場

今週のT/N GCは、▲0.085～▲0.070%のレンジでの取引となった。資金調達ニーズが旺盛だったことから、出合いレートは安定して推移した。

SCは個別銘柄では2y414～424、5y142～146、10y349～362、20y172～176、30y66～70、40y13など、カレント銘柄近辺や、チーベスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、短国オペのオファー額が先週から減額となる中、3M物が▲0.103%、6M物が▲0.105%、1Y物が▲0.115%近辺で推移し、前週比やや軟調な展開となった。一方、3日間連続で行われた入札はいずれも無難な結果となり、需給の底堅さが意識された。

14日に行われた短国買入オペは引き続き1Y物が買入対象外とされる中、前回から7,500億円減額の7,500億円でオファーされ、平均落札利回較差+0.002%、按分落札利回較差+0.001%と、無難な結果となった。

15日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.100%近辺での気配が見られる中、平均落札利回▲0.1036%、按分落札利回▲0.0996%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.106%の出合いが見られるなど、堅調に推移した。

16日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.111～▲0.108%の出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1161%、按分落札利回▲0.1091%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.114～▲0.112%の出合いが見られるなど、底堅く推移した。

17日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.103%の出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1011%、按分落札利回▲0.0991%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは特段の出合いは見られなかったものの、▲0.099%の買い気配が見られるなど、底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、20日を挟む発行にあたり、機械業態で1,000億円程度の発行があったことを始め、幅広い業態で大型発行が見られた。投資家の担保需要は引き続き強く、マイナス圏での出合いが中心となった。週間の金額ベースでみると、4,700億円程度の償還に対して、5,100億円程度の発行と若干の発行超となった。市場残高は、24兆円台半ばでの推移が続いた。発行レートについては、概ねマイナスとなっているものの、オペの按分レートが上昇傾向にあり、大型銘柄は0%近辺となっている。一方、発行残高の少ない銘柄は6月末越えを中心に一段と強い買いが見られた。

CP等買入オペは、14日に予定通りの5,000億円でオファーされた。今月より「1先あたりの応札限度額を、原則としてオファー金額と同額とする」文言が外され、応札額の制限も予想されたものの、今回の応札限度額は5,000億円とオファー額と同額となった。その影響もあってか、応札額は9,900億円程度と膨らみ、按分レート▲0.006%と前回の▲0.010%より更に上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
6/14 (月)	29,161.80	0.035	109.77	△ 0.015	△ 0.081	5,199,100
6/15 (火)	29,441.30	0.045	110.08	△ 0.013	△ 0.086	5,287,700
6/16 (水)	29,291.01	0.045	110.10	△ 0.034	△ 0.085	5,274,500
6/17 (木)	29,018.33	0.060	110.68	△ 0.028	△ 0.084	5,296,000
6/18 (金)	28,964.08	0.055	110.29	△ 0.027	△ 0.084	5,308,100

来週（6月21日から6月25日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
6/21 (月)			
6/22 (火)		5Y 25,000億円 6/23発行	5月の米中古住宅販売
6/23 (水)	金融政策決定会合議事要旨(4月26・27日分 8:50) 4月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)		5月の米新築一戸建て販売件数
6/24 (木)	月例経済報告 (内閣府) 5月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	20Y 12,000億円 6/25発行	英中銀MPC結果発表 1-3月期の米GDP確報値 5月の米耐久財新規受注
6/25 (金)	1-3月期の資金循環統計速報(日銀 8:50) 6月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 60,000億円 6/28発行	5月の米個人所得・消費支出

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/21 (月)	▲ 300	47,900	47,600	CP買入 国債補完	▲ 500 100		▲ 400	47,200	国債大量償還・利払い 機関貸付回収 TB3M発行▲60000償還61100 TB1Y発行▲35000償還8800 5Y償還11100 10Y償還43100 20Y償還5900 エネルギー対策借入▲8000期日7500
6/22 (火)	0	2,000	2,000				0	2,000	
6/23 (水)	▲ 1,000	▲ 27,000	▲ 28,000	全店共通	▲ 3,400		▲ 3,400	▲ 31,400	5Y発行▲25000
6/24 (木)	▲ 2,000	1,000	▲ 1,000	社債買入	▲ 800		▲ 800	▲ 1,800	
6/25 (金)	▲ 2,000	▲ 3,000	▲ 5,000	新型コロナ支援	▲ 99,700		▲ 99,700	▲ 104,700	20Y発行▲12000
週間合計	▲ 5,300	20,900	15,600	—	▲ 104,300	0	▲ 104,300	▲ 88,700	

6/21は日銀予想、6/22以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、特段大きな需給的要因もなく、横ばい圏での展開が予想される。レポ市場は、GC T/Nは、引き続き投資家の資金調達が続くなかで、国債の発行が連続して行われることから、▲0.08～▲0.065%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、25日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。CP市場は、25日にCP等買入オペが5,000億円で予定されている。直近では按分レートが上昇し続けており、動向が注目される。

主要なイベントは、海外では24日に英中銀MPC結果発表、1-3月期の米GDP確報値が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入